宸殿、薬師琉璃光如来

本堂である宸殿は、元々は三千院の設計の一部ではなく、京都の中心地にあった建物です。明治後期（1868-1912）に境内に追加されたものです。

12世紀の堀河天皇の次男から始まり、皇族が、寺院の住職を勤めるようになって以来、本堂が住居として使われて来ました。

本堂への訪問者は、癒しの力を持つ仏である薬師琉璃光如来（エメラルドの光を放つ如来）を眺めることができます。伝教大師によって神の像が造られたが、一般には公開されませんでした。

この本堂は伝統的に、第77代天皇、後白河天皇の治世にまで遡る「声明」を唱えるおつとめである「Osenboko」に使用されています。

玉座の間と呼ばれる最も東側の部屋は、下村勘山のふすま絵に虹が描かれているため、虹の間としても知られています。

天皇の席は、畳敷きの別室の中心にあり、歴代の天皇が僧侶と祈りを共にする場所です。有清園の庭園が最も美しい眺めとなるよう設計されたこの部屋には、天皇の使者も迎えられました。